

ザンスカール山脈縦横断トレッキング報告

中道 宏

《ザンスカール？》

恥ずかしい話であるが、映画「幸せの経済学」と、NHK テレビのザンスカール川の厳冬期の氷の回廊の放映を観るまでこの地を知らなかった。後日、O.フェルミ「凍れる河」を読み関心がさらに高まった。

地図でインド北西部を開くと、ヒマラヤ山脈が西で終わり、カラコルム山脈が東から始まろうとするところをインダス河源流が北西に流れている。そのインダス河とヒマラヤ山脈の間にザンスカール山脈が平行に走っている。本会の HP 活動記録>海外山行に報告されている 2006 年、2007 年のトレッキングの拠点マナリーの北になる。

地政学的には、東は中国、西はパキスタンとの国境が暫定であり、このため外国人の入域は 1974 年まで禁止されて、現在でも国境方面に旅行するには許可証が必要である。深澤裕会員は開放時にこの地を旅行しており、当時の貴重な報文を読ましていただき、赤澤会員にはイザベラ・バードの探検記「チベット人の中で」を紹介いただいた。シリウスの皆さん、幅が広い。さらに、2006 年のトレッキング・メンバーの河内会員が一緒することになり、心強く、愉しみも倍加した。

《コースと日程》

Neo - Ladakh(後述)の勧めもあり、7月中旬としたが、これは成功であった。第1日に、今回の拠点とした Stok を車で発ち、Leh~Kargil 間の北西に幹線道路を走り、途中南下し、いくつかの峠を越え、Photoskar(標高 4200m、以下、4200 と略記する)に入る。

第2日から第7日まではザンスカール山脈を南下する。東と北から入り、西と南に抜けるので、タイトルに縦横断と記している。毎日峠を越えるが、SenggeLa Pass(5000)、HanumaLa Pass(4720)等高く、急である。第7日にザンスカール川の架橋中の橋を渡り、自動車道に出て、歩きは終わる。

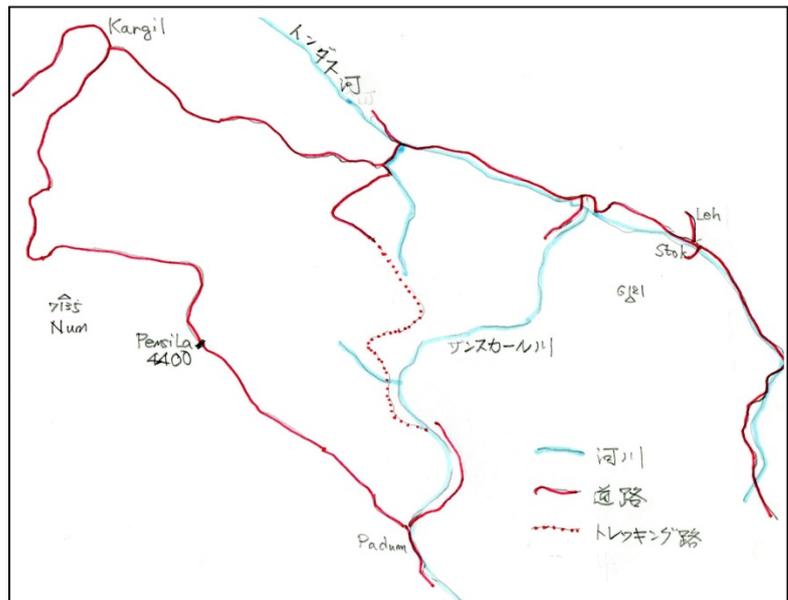
第8日はヒマラヤ山脈を眺めながら北上し、9日目に Stok に戻り、ザンスカール山脈北部一周のトレッキングとドライヴィングが終わる)。

《隊の編成》

カワカブ会で講演を聴いた池田悦子さん夫妻が経営する Neo - Ladakh に、高齢者を受け入れてくれるかどうか打診したところ、快諾いただいた。ありがたいことである。

隊は、経営者のワンボさん(日本語が私より上手い)が加わり、ガイド、コック、ヘルパー、馬方と馬5頭(仔馬が母馬についてきたので6頭)から成る。

3食・寝付きで、雨具・水筒・渡渉用のサンダルをザックに入れ、ガイドについて歩き、キャンプサイトに着くとお茶を飲みながら悠々と山を見



る、極めて贅沢な山行である。
《ザンスカール山脈の山容は
多様であり、トレッキングで
なければ味わえない》

悠然とした山容、高い山・峠と
深く鋭く切れ落ちる谷、奇観の岩
峰と岩壁、点在する大麦畑が織り
成す景観は、世界有数のものでは
ないだろうか。加えて峠を登り降
りし、路を回り込むごとに突然に
新たな景観が展けるのは、トレッ
キングでなければ味わえないもの
である。また、日本では鎖場とな
るような急な降りがほぼ毎日あり、
緊張させられた。



(↓悠然とした山容が連なる)



(深く切れ落ちる谷と奇岩、峠)

《誰がどのようにして村を拓いたのであろう》

この細い、しかし深い谷(009)の向こうに峠があり、険しい尾根(010)を越えて、その痩せた ParfiLa Pass(3950)(011)に立ち、この斜面(012)が人間の生存基盤となり得ると誰が考えたのだろうか。不思議である。また、社会に通じる道路までは危険な山道を数日も歩かねばならないところに現在でも住み続けている。「凍れる河」の世界はまだ在る。 (急峻な下り道⇒)

(点在する大麦畑)



(深い谷の向こうに峠があり・・・)



(険しい尾根を越えると・・・)



(ParfiLa Pass)



(ParfiLa Pass を越えた斜面にも人間の生存基盤が・・・)

《狼が仔馬を襲う》

条件に恵まれない土地に遠くから融雪水を水路で運び、大麦を育てている。それ以外の不毛に近い土地にまばらに育つ草を求めて、ヤギ、ヤク、馬が放牧されている。この外に野生の鹿、アイベックスが生存し、この頂点に雪豹や狼がいる。村を出たところに狼の罠が造られていた。死んだヤギをここに投げ込み、狼を誘い込むという説明は現実のものとは



考えなかった。 (死んだ山羊を投げ込んだ狼の罠⇒)

馬方はキャンプサイトに着くと、馬を放し、自由に草を求めさせ、朝早く馬を集める。先の仔馬が朝戻らず、母馬も傷ついていた。狼が襲うというのは現実のものであった。

《体調が良く、歩き通すことができた》

出発1ヶ月前から医師の指示で食生活の改善に取り組み始めた。例えば油で揚げた・炒めた料理は駄目、砂糖・牛乳・乳製品は駄目、小麦食も駄目と厳しく、体調が維持できるかどうか心配した。ワンゴ夫妻に特別の配慮をいただいたおかげで、ほとんどのものを、それも河内さんより多く、いただくことができた。

高度順化については近年劣化が進行していたが、この低下傾向を反転させただけでなく、これまでになく順調であった。

当初は、初めてのトレッキング体験でもあり、SenggeLa Pass まで行けないのではないかと心配したが、ガイドのソーナムさんや河内さんに遅れることなく歩き通しザンスカール川に達することができた。



(歩き通して達することができたザンスカール川)

(完)